

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 27 年 6 月 18 日 (2015.6.18)

【公表番号】特表 2014-515949 (P2014-515949A)

【公表日】平成 26 年 7 月 7 日 (2014.7.7)

【年通号数】公開・登録公報 2014-036

【出願番号】特願 2014-508827 (P2014-508827)

【国際特許分類】

A 6 1 M 5/178 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 5/18

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 4 月 27 日 (2015.4.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

例えば、場合によっては、長時間作用型インスリン（第 1 の薬物または一次薬剤とも呼ばれることがある）を、GLP-1 または GLP-1 類似体（第 2 の薬物または二次薬剤とも呼ばれることがある）などのグルカゴン様ペプチド 1 と併用して糖尿病患者を治療することが有益であり得る。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

さらなる一実施形態によれば、前記弁領域は前記第 1 の凹部に第 2 の凹部を含む。第 2 の凹部は第 1 の凹部よりも小さいので、弁座が依然として提供される。第 2 の凹部は第 1 の凹部と同様に作製することができる。第 1 の開口部を設けることが容易になるので、第 2 の凹部は有利である。第 1 の開口部は、前記第 2 の凹部内の任意の場所に位置することができる。特に、流体構造と、または液体を収容しているリザーバと第 1 の開口部を接続する必要がある場合、さらなる接続が単純化される。例えば、カニユーレを第 2 の部材に挿入し、その一端を第 2 の凹部に載置して、第 1 の開口部を提供することができる。したがって、さらなる流体システムを、第 2 の部材の外部にある前記カニユーレの第 2 の端部に簡単に接続することができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 3】

【図 1】デバイスのエンド・キャップが取り外されている、図 2 および図 3 に示される送達デバイスの斜視図である。

【図 2】カートリッジを示す送達デバイスの遠位端の斜視図である。

【図 3】1 つのカートリッジ保持器が開位置にある、図 1 に示されるカートリッジ・ホル

ダの斜視図である。

【図 4】図 1 に示される送達デバイスの遠位端に着脱可能に取り付け可能な投薬インターフェースおよび用量ディスペンサを示す図である。

【図 5】図 1 に示される送達デバイスの遠位端に取り付けられた、図 4 に示される投薬インターフェースおよび用量ディスペンサを示す図である。

【図 6】送達デバイスの遠位端に取り付け可能な用量ディスペンサの 1 つの配置を示す図である。

【図 7】図 4 に示される投薬インターフェースの斜視図である。

【図 8】図 4 に示される投薬インターフェースの別の斜視図である。

【図 9】図 4 に示される投薬インターフェースの断面図である。

【図 10】図 4 に示される投薬インターフェースの分解組立図である。

【図 11】図 1 に示されるデバイスなどの薬物送達デバイスに取り付けられた投薬インターフェースおよび用量ディスペンサの断面図である。

【図 12】第 1 の部材の様々な側面図である。

【図 13】第 1 の部材、第 2 の部材、およびメンブレンの組立て前を示す斜視図である。

【図 14】第 1 の部材、第 2 の部材、およびメンブレンの組立て前を示す断面図である。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0058

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0058】

それに加えて、カートリッジ・ホルダ 40 の遠位端では、図 1 に示される薬物送達デバイスは、投薬インターフェース 200 を含む。図 4 に関連して記載されるように、1 つの構成では、この投薬インターフェース 200 は、カートリッジ・ハウジング 40 の遠位端 42 に着脱可能に装着される主外部本体 210 を含む。図 1 で分かるように、投薬インターフェース 200 の遠位端 214 は好ましくはニードル・ハブ 216 を備える。このニードル・ハブ 216 は、従来のペン型注射針アセンブリなどの用量ディスペンサを、薬物送達デバイス 10 に着脱可能に取り付けることを可能にするように構成され得る。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0063

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0063】

図 5 はまた、インターフェース 200 のニードル・ハブ上に螺着可能な投薬インターフェース 200 の遠位端に連結されたニードル・アセンブリ 400 および保護カバー 420 を示す。図 6 は、図 5 の投薬インターフェース 200 に取り付けられた両頭針アセンブリ 400 の断面図を示す。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0065

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0065】

同様に、ニードル・アセンブリ 400 の第 2 のまたは近位側穿孔端部 407 は、スリーブ 403 によって同心的に取り囲まれるようにして、円板の反対側から突出する。1 つのニードル・アセンブリ構成では、スリーブ 403 がバック・スリーブの先端をある程度保護するように、第 2 のまたは近位側穿孔端部 406 はこのスリーブよりも短くてもよい。図 4 および図 5 に示される針カバー・キャップ 420 は、ハブ 401 の外表面 403 の周

りで形状嵌めを提供する。

【手続補正7】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図6】

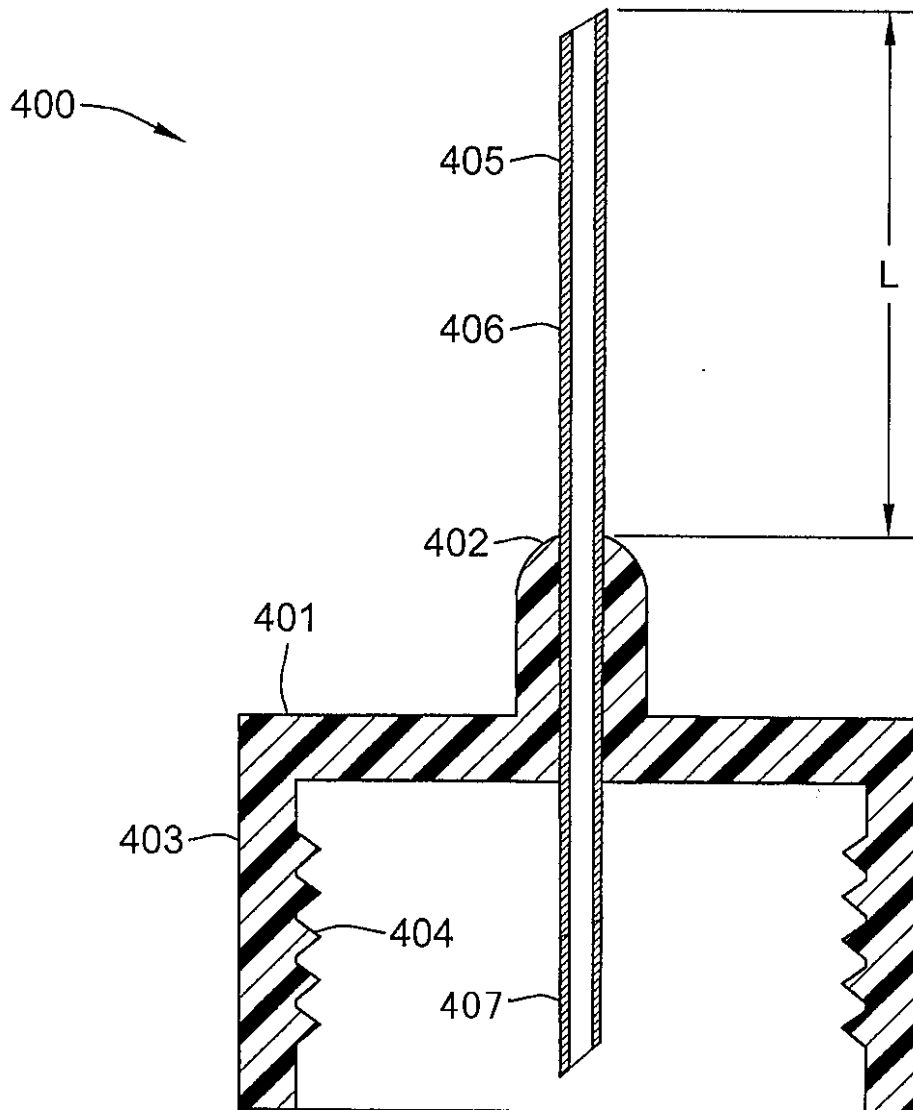


Fig.6